

「人間の究極の願いは 幸せになること」

—コロナ後に「幸せ」格差が生まれる?—

本誌編集長 佐藤 公 (さとう たかし)

岸田新内閣、問われる 「個人の幸福」と「社会の幸福」の調和

依然長期化が避けられない
コロナ禍の時代に「ウイズコロナ」
という概念、新語が定着しつつ
あるが、さらにコロナ禍で変容
する社会、働き方や新しい生活
様式で人間の「幸せ」が注目さ
れている。

岸田新内閣は、新しい資本主
義の実現で「富める者と富まざ
る者、持てる者と持たざる者の
分断を防ぎ、成長のみ、規制改
革・構造改革のみではない経済
をを目指すための『成長と分配の
好循環』と、デジタル化など新
型コロナによってもたらされた
社会変革の芽を大きく育て、
『コロナ後の新しい社会の開拓』
をコンセプトとした、新しい資
本主義を実現していく(原文)

「幸せ遺伝子」をスイッチ・オンで ポジティブに生きよう!

「人間の究極の願いは幸せに
なること」と村上和雄先生(生
命科学研究者、筑波大学名誉教
授1936~2021)は幸福
論を述べている(致知、202
1年6月号)。
村上先生が親を対象に行っ
た「自分の子供が大人になっ

基本方針を掲げている。

今後、政策や国のあり方を考
える上で国民の「幸福」が重要
な鍵となるだろう。つまり、「個
人の幸福」と「社会の幸福」の関
係である。幸福は個人の主観的
評価に基づくものであり、一人
ひとりの幸福感に格差がある。
誰もが自分の幸福の最大化を
求めることは当然だが、個人の
幸福の追求が社会全体の幸福
をもたらすのかどうかはわか
らない。格差が拡大している
といわれる現在、「個人の幸福」と
「社会の幸福」の調和をどのよ
うに図るのが重要な課題で
ある。

「私たちが望む幸せとは何な
のか!」を自分や家族について
改めて考える必要があるだろう。

「一番願うことは?」というアン
ケートでは『幸せな人生』との
答えが一番多かった。金持ちに
なる、立派な仕事に就くのは
なく、人間の究極の願いは幸せ
に生きていくことだと村上先
生は考察する。このことは前号
で紹介したアグネスチャンさん

の子育て論と同じである。子
供達に幸せな人生を送っても
らおうと思ったら、周りの人を
喜ばせることに喜びを感じら
れる子に育てなければダメだ、
つまり『人間らしさ』の育成だ
と説いている。

また他の調査でも「今、幸せ」
と答えた人は相手に喜んで
らおうという思いで仕事に取
り組んでいたという。逆に「今、
幸せでない」と答えた人達は、
『もっと稼ぎたい』『もっと上に
いきたい(偉くなりしたい)』と自
分のことばかり考えていた。
「幸せ」とは、『与える生き方(ギ
ブ・アンド・ギブ)』をしてい
く中で得られるもののように
ある。

さらに、村上先生は遺伝子の
スイッチをオンにすることで
人生をポジティブに生きるこ
とを伝えている(「スイッチ・
オンの生き方」、致知出版社)。
遺伝子がタンパク質や酵素を
「つくる・つくらない」という
ことを遺伝子のスイッチの「オ
ン・オフ」と表現。人間の遺伝
子は約30億個で、そのうち実際
に働いているのはわずか5%
程度。つまり残りの「成功させ
る遺伝子」を働かせる心のあり
方が大切だという。そして、伸
びる人の三つの条件を挙げる。
「伸びる人とは眠れる遺伝子

を呼び起こすことがうまく、そ
れが下手な人は能力や才能を
持ちながらも伸びきれない人
です。第一に、物事に熱中でき
る人。第二に、持続性のある人。
第三に、常識に縛られない闊達
さを持つ人。何ものにも規制さ
れない自由な発想を持つこと
です。つまり、子供のような感
覚を持っている人が伸びるの
です」と説く。

また、村上先生は同書で「子
供の幸せを願う親と同じよう
に、私たちは『自分の幸せ』を忘
れがちです。一人ひとりが今あ
る命や幸せを意識し、感謝しな
がら生きていくことが、どのよ
うな危機に遭遇しようと、人
類、そして地球の幸せに繋がっ
ていくと考えます」と結んでい
る。

最後に「幸福とは何だろう」。
「人格は最高の幸福である」と
ドイツの文豪で科学者、政治家
のゲーテは言った。

自分自身を失わなければ
どんな生活も苦しくはない
自分が自分自身でさえあれば
何を失っても惜しくはない
これは「自分が自分自身でさ
えあれば、幸福であり続けるこ
とができる」という意味である
が、「自分自身でものを考え、感
じ、行動すること」が何よりも
重要なのである。
「あなたは今、幸せですか?」